

要請書

防衛大臣 木原稔様
基地司令 渡部琢也様
自衛隊員の皆様

2023年10月28日

パレスチナ・ガザの状況は緊迫したものになっています。イスラエル軍はガザを完全に軍事封鎖し、外部支援がなければ生きていくことのできないガザの人々への食糧、水、医薬品、電気、燃料、衣料品の搬入を止め、空爆を続けています。国連のグテレス事務総長がいうように「明確な国際人道法違反」です。アメリカは地中海に二つの空母打撃軍を派遣し、イスラエル支援の態勢を作り、イスラエルの「自衛権行使」を支持するとしています。事実上ガザ侵攻を容認しています。民主主義と法の支配を語ってきたアメリカはまさに二重基準です。これが日本の同盟国アメリカの実態です。

第2次安倍政権以来、日本とイスラエルの軍事的結びつきは強まっていて、昨年8月には防衛協力覚書を締結しています。アメリカに追従し、イスラエルとの軍事的結びつきを強める日本。中東の人たちはどうみているのでしょうか。アメリカやイスラエルと同一視されるのではないのでしょうか。自衛隊の基地のあるジブチから海峡を隔てて約30キロのところにイエメンがあります。このイエメンの「フーシ派」がイスラエルにむけて巡航ミサイル4発とドローン15機を発射したとの情報もあります（10月19日）。ジブチ基地の使用は「海賊対処」名目ですが、今は年間0～1件ぐらいしか対処事案がありません。地域の状況からみてジブチ基地は自衛隊を戦闘に巻き込みかねない危険な基地となっています。ここに自衛隊がいる必要性はありません。当初の海賊対処の任務を終了し自衛隊はひきあげるべきです。海外派遣の拠点にと考えているのならなおさら危険です。

10月14日邦人輸送のため小牧からKC767空中輸送機がジブチに向かい、20日にはイスラエルのテルアビブからヨルダンへ、24日には日本人など83人を乗せ羽田空港に帰着しました。現在ヨルダンにはC2が2機、C130が1機いることになります。しかし、実のところ「邦人保護・救出」は武力行使と紙一重です。「敵」からみれば戦闘行動に見えることも予想されます。戦闘地域なら自衛隊機が行くべきではなく、安全な地域であるなら民間機を使うべきです。以下要請します。

1. イスラエルに停戦とガザ封鎖を解除させるための外交努力をすること
 1. ジブチ基地から自衛隊をひきあげること
 1. 邦人輸送の名目で自衛隊機を戦闘地域に送らないこと
- 以上、自衛隊員とその御家族のためにも要請いたします。

不戦へのネットワーク

名古屋市中村区那古野1-44-17 嶋田ビル
TEL 050-3593-5130